



父母会だより

2020 年度第 3 号

今回は DAGS& ラガール特集！中学生以降のイメージ作りに是非お子様と一緒に読んでいただきたいです。

中学生になってもラグビーって続けられるの？どんな活動なのかな？

「中学生になってもラグビーを続けたい！」というお子さんも多いかと思います。そこで、麻生ラグビースクールの中学部である「神奈川 DAGS」の小坂校長に色々とお話を伺いました。

Q. DAGS の名前の由来を教えてください。

田園 RS(D) と麻生 RS(A)、グリーンクラブ RS(G) の 3 つのラグビースクールで連合の中学生チームを結成し、それぞれの頭文字からチーム名を「DAGS」として活動を始めました。その後、田園 RS が単独チームとしてエントリーする事になったため、現在は麻生 RS とグリーンクラブ RS の出身者を主な対象として活動しています。

Q. なぜ麻生 RS の単独ではなく、連合チームとしてスタートしたのでしょうか。

スクール単独の中学部は選手の人数が足りず、他のスクールとの合同チームで大会に参加しているケースもあります。その場合は県大会で優勝したとしても全国大会に進むことができません。最初から合同チームとすることにより活動人数を確保し、単独チームでの大会エントリーを行いやすくしています。

最近では同じく、茅ヶ崎 RS・海老名 RS の中学部が合同チーム（湘央ラグビースクール）として発足しました。

Q. 学年別の所属人数と出身クラブを教えてください。

	麻生RS	グリーンRS	計
3年	8人	7人	15人
2年	4人	10人	14人
1年	9人	10人	19人
計			48人



Q. ミニラグビーとジュニア（中学）ラグビーとの違いを教えてください。

中学は 12 人制（FW5 人、BK7 人）となり、フルコート（15 人制と同じ広さ）での試合を行います。試合時間は前後半 20 分ずつの計 40 分です。特に、スクラムとラインアウトの形がより 15 人制に近づいているのが特徴です。

Q. 試合出場時のチーム構成を教えてください。

A チーム → 3 年生中心

B チーム → 3 年生、2 年生、1 年生が対象（但し、3 年生と 1 年生と一緒にプレーをしないよう協議をして試合を実施しています）

C チーム → 1 年生（U-13）

大きな大会は 1 スクール 1 チームのみエントリー可です（A チーム）。大会により多チームエントリーが可能であるため、B チームと C チームを作ることによって多くの生徒に試合参加の機会をもたせることができます。

Q. 中学の部活動と比べて強み・弱みはどこにあると思われますか。

選手の獲得において部活動と競争しているという認識はありません。近年は中学における部活動のウエイトは顧問の先生の働き方改革の影響もあり下がってきています。特に現在はコロナの影響により部活動が例年どおり行っていない学校が多いため、校外でスポーツを行う機会を提供するスクールの意義は大きいと考えています。

Q. クラブの活動目標はどういったものでしょうか。

「次代を背負う若者づくり」をスローガンに、「高校へつなげるラグビー」を目標として活動しています。そのために基礎体力をつけ、ラグビーを嫌いになってやめてしまわないよう楽しくラグビーをするように指導しています。

ただ、卒業生からは「高校とくらべても DAGS の練習はきつかった」とのコメントもありました（笑）

Q. チーム内での上級生・下級生の関係はどうなっていますか。

部活動のような上下関係はありません。お互いに君付けやニックネームで呼び合っています。

Q. 年間を通じて目標とする大会、試合はありますか。

毎年 4 月から 5 月にかけて開催される県大会です。これに優勝すると東日本大会に出場でき、そこで 1 位もしくは 2 位に入ると全国大会（9 月）に出場できます。

Q. スクール生は部活との両立はどのように行っていますか。

平日のみの参加が許される部活に所属する子が多いです。ただ、（公立中学でも）スクールとの掛け持ちが認められない学校もあります。そういった事情から、平日は部活、週末はラグビースクールで始めるも、折り合いがつかなくなっていく人も多いです。

Q. 進学サポートは行っていますか。

行っています。多くのスクール卒業生がラグビー部のある高校へ進学しています。

Q. 練習に参加するにあたってのルールはありますか。

練習、試合会場へは親に送ってもらうのではなく、自分の足で電車、バスを乗り継いでくるように指導しています。また、活動中は原則として携帯電話の使用は認めていません。

Q. 神奈川県内の中学ラグビーの現状はどうなっていますか。

横浜ラグビースクールが選手人数が多く強いです。選手の引き抜きや強い選手の偏りを防ぐため、スクール間の移籍は引越越し等の事情がない限りは原則 NG となっています。

中学校の部活でラグビーを続けることが難しい中、そしてコロナ禍において練習活動が難しい中でも、なんとか中学生たちにラグビーを続けられる場所を提供し続けようという想いを感じました。中学生にとってやはり部活の存在は大きいものだと思いますが、そんな中でも”ラグビーを続けたい”というお子さんに DAGS は選択肢の 1 つになるのではないのでしょうか。現在の麻生 RS の選手が DAGS で躍動する日を楽しみにしています！（インタビュー：S）

「ラガール」ってどんな活動をしているの？

女子ラグビーの普及育成にご尽力なさっている、《女子委員会》副委員長の小坂頼史コーチに、お話を伺いました。

Q. 《ラガール》とは？

ラグビー×ガール の造語のようですよ。

Q. チーム名は？

活動名《神奈川 PRINCESS》。 神奈川県ラグビーフットボール協会への登録名《神奈川県女子ジュニア》です。

Q. 主な練習日、場所はどこですか？

土曜日、メイングラウンドは保土ヶ谷ラグビー場ですが、今は海老名中野グラウンドなどをお借りし、選抜チームとグラウンドを分けて練習をさせてもらっています。

Q. 参加条件はありますか？

神奈川県在住の小学 3 年生～中学 3 年生までの女子で、スクールに所属してなくても参加できます。

Q. 活動方針はありますか？

PRINCESS ではスクールの方針と同じで、ラグビーを楽しみましょう！という考え方です。そのため練習や試合だけではなく、クリスマス会やお別れ合宿などのイベントもあります。

また、本格的にラグビーをやりたいスクール・学校・女子ジュニアに所属している中学 2 年生・3 年生の中から、セレクションによって選出される神奈川県代表の選抜チームもあり、ここでは県代表として全国で戦うので、強化を目的とした本格的な練習メニューもこなしています。



☆麻生のラガールたちと OG ☆
現在神奈川 PRINCESS の活動に 3～5 年生の 4 人が参加しています。

Q. 神奈川 PRINCESS と、DAGS 両方に所属することは可能ですか？

可能です。ただ、年齢によるラグビーの競技性からコンタクトや組むことも多く、が、男女関係なく練習やプレーができるかどうかの本人の性格などにもよると思います。

Q. ラガールは、全国的に増えてきていると思いますか？

はい。小学生などのミニは増えてきていると思いますが、やはり中学にあがる時期でラグビーを辞めてしまう子が多く、中学・高校の層が薄く、裾広がりピラミッド形が理想なので、普及育成を元にラガールを増やしていきたいですね。（ちなみにですが、小坂コーチのお嬢さんは高校でも、そしてこれから大学やクラブチームでもラグビーを続けていかれるそうです！まさに、ラガールの星ですね☆）

お話を伺い、ラグビーが好きと言っている娘の気持ちが途切れないよう、ずっと続けていけるよう、親も一緒に楽しみながら見守っていきたいと、改めて思いました。

コーチの皆様、色々な情報やサポートを今後ともどうぞよろしくお願い致します。（インタビュアー：S）

練習グラウンドってどうやって 決まっているのかな？

ここ数年いろいろな場所で練習するようになりましたが、どうやって決めているのかな？と思っている方も多いかと思います。グラウンド施設予約担当の宮本コーチにお話を伺いました。

Q. コロナ禍でのグラウンド事情また練習グラウンドの確保ついてお聞かせ下さい。

現在使用している稲城市のグラウンドは、4年生のご家庭のご協力でご協力を提出して頂き、予約システムを使わせて頂いています。3ヶ月前に抽選の申し込みをして、2ヶ月前に抽選の発表となります。河川敷のグラウンドに関しても、稲城市の団体が優先となっており6時～9時・15時～18時のコマしか予約の申し込みが出来ない状況です。

Q. 日大稲城グラウンドを使用させて頂く事についてコロナ禍後の展望を教えてください。

日大グラウンド使用に関しては4月以降も未定となっています。スクールとして日大の中野監督とはコンタクトを取っており、本部からのOKができれば使用可能となります。先ずは日大の学生が使用出来る様になる事が前提になるので、当面は稲城市のグラウンドを使っていく方向になっています。

Q. 現在、色々なグラウンドをお借りして練習をする事が出来ていますが、子供達に心がけて欲しい事等があればお願いします

他のラグビースクールも含めて、練習グラウンドがある事が当たり前では無くなっています。

グラウンドで思い切り練習出来る事や真剣に指導して頂いているコーチ、送迎やお手伝いをして頂いている父母への感謝の気持ちにいつか気付いて欲しいですね。

インタビューを通じ、何ヶ月も前からグラウンドを手配して頂いているコーチ達やご父母達の様々な支援の下で、このコロナ禍でも練習が継続出来ていると言う事を改めて感じました。その上で、新しくなった日大稲城のグラウンドで子供達が練習している姿を早く観る事が出来るといいですね！（インタビュアー：H）

マウスガードの事、スクール歯科医さんに聞いてみました！

マウスガードってご存知でしょうか。安全にラグビーをするためのアイテムの1つです。どんないいことあるの？してみたい、させてみたくけど、どうしたらいいかわからない？子どもに合うのかな？そんなマウスガードの疑問について、スクール歯科医さんに取材させていただきました。

Q. マウスガードの役割をおしえてください。

大きくは2つです。ひとつ目はほとんどの方がご存知かと思いますが、口の中の外傷を防ぐことです。実はマウスガードは外からも内からも口を守っています。マウスガードは上の歯を包むようにつけますが、その外側はほっぺの裏やベ

ろなどの柔らかい部分を切らないように守ります。内側は歯の破裂を緩和します。タックルする瞬間やボールを投げる瞬間などぐっとかみしめるので、実は奥歯に相当の負荷がかかり、砕けてしまう例もあるのです。

もうひとつは脳震盪を防ぐ役割があるといわれています。後頭部を激しく打つと、その反動で上下の歯に激しい力がかかり、その反動で脳に影響を及ぼします。マウスガードは衝撃を脳に伝えにくくする、いわばクッションのような役目をしているんです。

Q. おすすめは何年生からですか？

コンタクトが激しくなってくるので、タグを卒業した3年生くらいからできれば始めて、慣れていってほしいです。

Q. 生えかわり、虫歯、矯正中などでも作れますか？

虫歯があるときは治療してから、歯が抜けそうでグラグラしていたら抜けてからがいいです。歯が抜けていたら、生えてきたのを想定して作ることができます。矯正中は器具で口を切りやすいので、積極的に使うことをお勧めします。矯正医との連携が必要ですし、普通の場合よりも型取りも難しいのですが、作製経験ありますのでご相談ください。

Q. 作り直しのタイミングを教えてください。

破れるなど破損したときと、生えかわりなどで合わなくなったときです。破損時はもちろんですが、合っていないと集中できず、怪我につながることもあるかもしれません。

Q. マウスガードの扱いの注意点を教えてください。

お手入れは基本、水洗いですが、作製後のお渡しの際に別紙でご案内します。デリケートなものなので乱暴に扱わないように。特に暑さに弱く、変形してしまうこともあるので、ケースに入れて涼しい場所に保管してください。

また虫歯の原因になることもあるので、つけたまま飲食をしないでください。

Q. マウスガードをするデメリットはありますか。

最大のデメリットは違和感ですね。中学以上はマストアイテムになるので、小学生のうちから慣れることが大切です。日本代表の福岡選手は、お父上が歯科医だそうです。「かみあわせがよくないと力がでない」という福岡選手のためにマウスガード作ってらして、もうマウスガードがないと逆に不安で仕方ないようだと話していた記事を読んだことがあります。（心をも支えるとなると、デメリットを超えるメリットがありますね。）

Q. マウスガードを作るときの流れを教えてください。

型取りをして、そこに超硬石膏を流して型を作る ⇒ 専用機械を使って、素材を熱で溶かし、3cmくらいクニャッと落ちたところでギュッと圧接する（このタイミングの見極めが大事で難しいところだそうです）！ ⇒ 余分なところをカットして研磨 ⇒名前入りケースに入れてお渡し

Q. マウスガードを作るときの注意点はありますか。

型取りのときはしっかり歯磨きをしてきてください。汚れが残っていると、歯にぴったりと合った型がつかれないことがあります。

Q. 歯科医師の立場から、ラグビーを見ていて気になることはありますか。

いえ、ありません。麻生のコーチの皆様はほんとに子どもたちの健康のことに気を使われていることがわかります。マウスガードの作製についても熱意をもって考えてくださることに感謝しており、まったく心配していません。それは今回のコロナの対策のこともそうだと思います。

生えかわり期には何度も作り替えることになるかもしれませんが、口内や脳の安全だけでなく、心の安心も得られる大切なものだと思います。（インタビュアー：H）

★スクール歯科医師の医院『平戸歯科医院』 <https://www.hirado-dent.com/>

【編集後記】小坂校長のお話で中学生以降のラグビーへの取り組み方や女子選手の活動のイメージが膨らんだのではないのでしょうか。これまで父母会だよりとして麻生RSのあれこれについて掲載してきました。一日も早く思いっきりラグビーができるようになり、もっとグラウンドで直接交流や情報交換ができるようになるといいですね！インタビューにご協力いただいた皆様、貴重なお話を聞かせていただき、ありがとうございます。（編集担当：M・N、イラスト：S）